

無限に広がる将来の選択肢

特別インタビュー | SPECIAL INTERVIEW

「世界を舞台に活躍する中小企業診断士」

ワールドカップやアジアカップをはじめ、数多くのサッカー国際試合の副審を務めている相楽亨さんは、TACで中小企業診断士試験に合格した先輩でもある。相楽さんのサッカー審判としての歩みと仕事の歩みを並列で追いながら、中小企業診断士の取得が人生にどんな影響を与えたかを追ってみよう。



中小企業診断士で学んだ知識が 審判としての成長をあと押ししてくれました!

金融機関勤務から診断士へ

——大学卒業後、地元の金融機関に勤められましたが、その段階でプロ審判という選択肢はなかったのでしょうか。

相楽▶プロの道は非常に厳しく、その当時プロ審判は2〜3人しかいませんでしたし、まだそこまでの意識はありませんでした。

ただ審判を目指そうとは決めていたので、試合のある土日に休める仕事を探しました。となると地元では金融機関が第1候補です。当時、審判の先輩で地方信用組合に勤務している方がいて、「信用組合はカレンダー通りに休めるから審判にはいいぞ」と誘われて、地元の信用組合に採用していただきました。

ところが、私が就職したと同時に金融再編の波が一気に押寄せ、地方信用金庫、信用組合が合併・淘汰され、業務も大手地銀に追い付けと、残業が増え、休みも取れない状況になってしまったのです。

また、社会人2年目で審判1級になり、Jリーグも担当できるようになりましたから、審判の方もますます忙しくなっていました。

——だんだんと仕事と審判の両立が難しくなってきたんですね。

相楽▶そうですね。国際副審にもなれた頃には、もう仕事との両立はどうにもならなくなりました。国際審判は年間100日は海外で審判を行います。となれば金融機関勤務は完全に不可能。そこで「これは自営業しかない。金融機関が一番近い自営業はなんだろう」と考えた時に出て来たのが、中小企業診断士でした。

——中小企業診断士という資格はご存知だったのですか。

相楽▶それまで診断士の存在は全く知りませんでした。ところが調べてみると、金融機関によっては診断士取得を奨励しているところがあることもわかりました。それならこの資格が一番いいだろうと、仕事をしながら勉強を始めたわけです。

——どのようなかたちで受験勉強をされたのでしょうか。

相楽▶最初の年はある通信教育を受講しましたが、テキストが全く理解できませんでした。これでは難しい、簡単じゃないかと悩んでいた時、合格実績、受講生の多さから考えるとTACがいい、という情報をキャッチしたのです。すぐにDVD通信講座を申し込みました。

TACの講座は劇的に分かりやすかったですね。勉強しているというよりも面白いDVDを見ている感覚で、TACから教材が届くのが待ち遠しい位でした。勉強は苦労したというよりも楽しかったですね。

また、通信講座の方は周りの状況がわからない点や直接先生と会えない不安があると思いますが、私は、質問メールとスクーリングを大活用しました。質問メールのやり取りで覚えていただけたことで、スクーリングに参加し教室で先生とお会いしたときに、「おお、君か」と言われた時は、ずいぶんと勇気づけられました。

——仕事をしながらの受験勉強はたいへんだったのではないですか。

相楽▶確かにだんだんと両立が難しくなってきました。会社を夜8時に退社してトレーニングに行き、帰宅が夜10時。夕食をとって寝る前1時間勉強しようとすると思ってしまう。仕事とトレーニングと勉強、土日の審判……この4つをこなすのは本当に厳しかったですね。ストレスで耳鳴りが酷くなり、通院もしました。

その頃、まもなく結婚という時期で、家内に「病気になるからどうか辞めて」と言われました。じゃあどれを辞めようか考えると、「審判は辞められない」となるとトレーニングも辞められない」。すると診断士受験が仕事

です。「じゃあ仕事を辞めよう」となったのが2006年です。

退職後、月〜金は午前中はトレーニング、午後はすべて図書館で診断士受験の勉強、週末は審判。ストレスゼロでこんな楽しいことはない状態になりました。おかげでその年に1次試験合格、翌2007年に2次試験合格。2009年3月には診断士として登録しました。

審判にも将来にも役立つ資格

——最後に診断士を学習したことで得られた成果を教えてください。

相楽▶診断士の資格、学んだ知識は審判をする上でも非常に有効です。論理的な考え方や自分で問題改善する能力、さらに2次試験で培った抽象化と具体化も、人から指導を受ける際や指導する時に役立ちました。ここは抽象的に言っておこう、ここは具体的に言っておこうという、話の強弱を意識して話したり聞けるようになりました。例えば指導者から抽象的な事を言われたときにも、以前は何を言っているのかわからなかった事がわかるようになりましたね。

だから診断士の資格を取っていなかったら、審判としてここまで成長できなかったかもしれないと感じるくらいです。私は審判のプロを目指している後輩から将来について相談を持ち掛けられた時、いつも「診断士は審判にも将来にも役立つからぜひ取得する」といって必ず奨めます。

サッカー国際副審 中小企業診断士

サ ガ ラ ト オ ル

相楽 亨 さん

栃木県出身。
宇都宮北高校卒。東洋大学経済学部卒。
1999年、矢板信用組合(現・那須信用組合)入組。
2006年、同組合退社。
2007年、中小企業診断士試験に合格。
2009年、日本サッカー協会とプロ契約(副審担当)。

- 主な国際試合(すべて副審)
 - 2007年: FIFA U-17ワールドカップ@韓国・決勝。
 - アジアカップ@インドネシア他・準々決勝
 - 2008年: アフリカ選手権@ガーナ・準々決勝。
 - ポーランド1部リーグ
 - 2009年: FIFA U-20ワールドカップ
 - @エジプト3決
 - 2010年: FIFA ワールドカップ@南アフリカ

- 主な国内試合(副審)
 - Jリーグ: 通算80試合
 - 2009年: 天皇杯決勝
 - 2007年、2009年: Jリーグ優秀副審賞受賞

